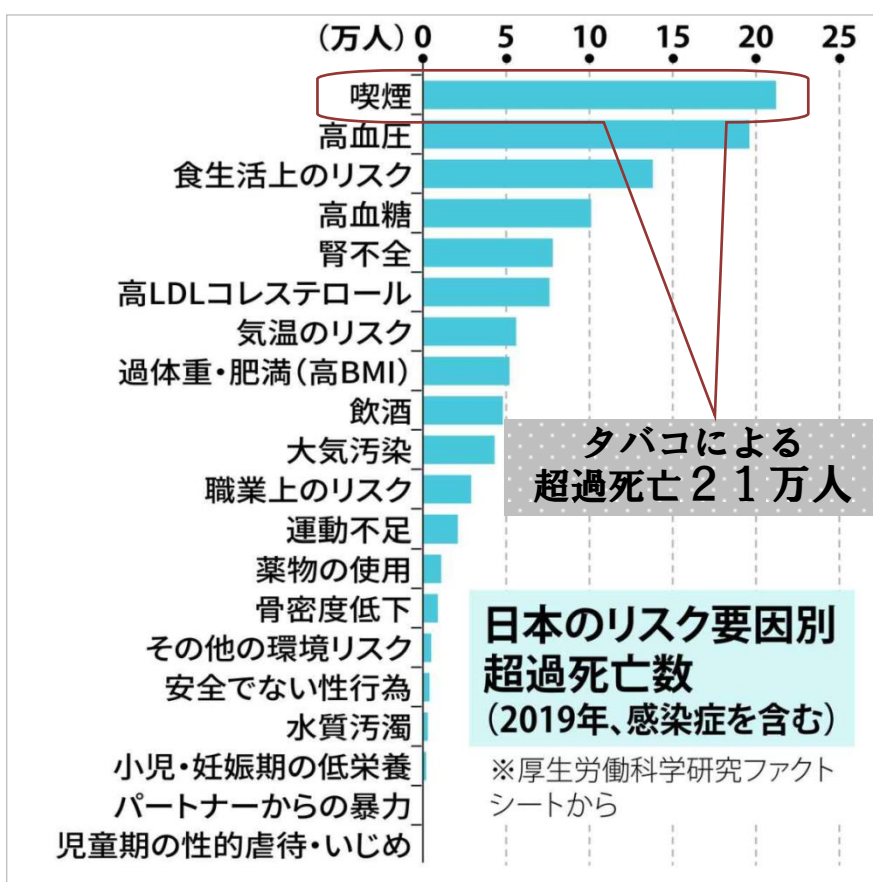


**週刊 タバコの正体**

今年も暑いあつい夏休みでしたが、皆さんどのように過ごしていましたか。楽しんだり学んだ事はあったでしょうか。有意義な夏休みであった事を願っていますが、とにかく元気に登校し2学期に臨んでくれた事を喜んでいきます。

さて、下のグラフは厚生労働科学研究の研究班によって公開された2021年度のデータをグラフ化したものです。様々な健康被害要因別の死亡者数を調べたものですが、そのトップにあるのが喫煙です。「タバコによる超過死亡21万人」とあるのは、「もしタバコがなければ、21万人も人は死なずに済んだ」はずだとも言えるのです。



一方、新型コロナウイルス感染症が最初に確認された2020年2月から今年1月までの約3年間で死者の累計は6万人を超えたそうです。学校が休校になるなど外出自粛や、ワクチン接種など、さまざまな感染防止対策が講じられた結果の数字だと思います。

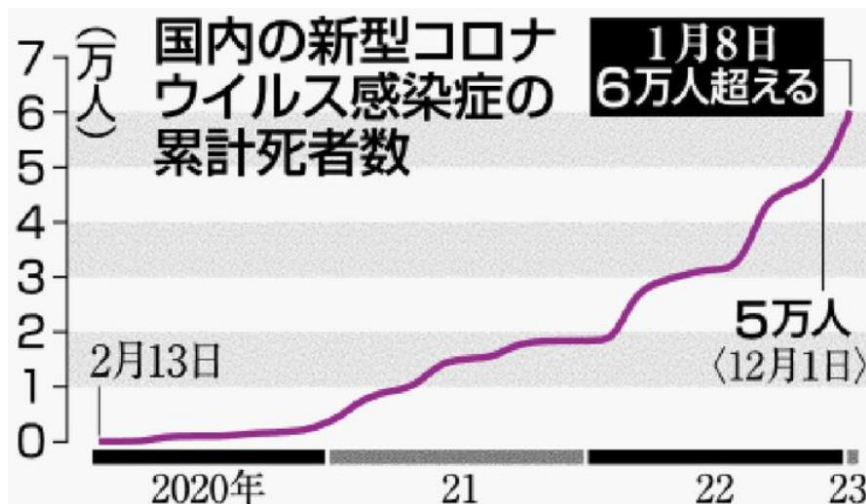
コロナの3年間で6万人に対し、タバコは1年間で21万人もの命を奪っています。新型コロナウイルス感染症は国じゅうで様々な対策がとられたのに対し、タバコはどうでしょうか。

もし、存在しなければ21万人の命を救えるはずのタバコがコンビニや自動販売機で無尽蔵に売られているのが現状です。命を奪うような商品がどうして販売されているのか。

皆さん、ちょっと考えてみて下さい。そして、調べてみて下さい。

産業デザイン科 奥田恭久

産経新聞「ライフ」サイトから



沖縄タイムスプラスから